

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、図書館全般の予算管理、契約、委員会運営等の庶務業務、経理業務、図書受入・整理業務、雑誌業務、図書館システム関連業務、および特別資料などの大型コレクション資料、洋雑誌・電子資料の契約業務を含め、図書館の管理運営業務の大部分を担当している。また調達依頼、理事会審議案件の上程など学内関連部署との連携・調整業務全般、学内諸手続き関連業務、さらに各種関連学外団体との渉外業務等、対外関係業務も担当している。なお本年度、予算職掌のため特別資料費による高額資料の購入を見送ったこと、その他該当する補助申請項目がなかったことにより、例年行っていた補助金申請業務は発生しなかった。

また、2009年度から、明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）設置計画に関する業務、その先行施設としての米沢嘉博記念図書館、現代マンガ図書館の運営も上記図書館総務業務と兼務している。これらマンガ関連の業務は本報告書の対象外であるため省略するが、このために必要な人員手当ては行われておらず、図書館総務事務室全体として見ると、非常に厳しい少人数下での業務遂行が続いている。

(1) 除籍および廃棄

「図書館図書管理規程」に基づき資料の除籍作業を毎年定例的に行っている。毎年1万冊を目途に除籍を行っているが、本年は1,256冊（固定資産）の除籍で、日標を大幅に下回った。現在、書庫の狭隘化が非常に大きな問題になっており、計画的かつ有効な除籍計画立案、実施を各部署に強く要請したい。

(2) ポラックコレクション展の開催

2014年4月26日から6月22日にかけて、神奈川県立歴史博物館において特別展「明治大学 クリスチャン・ポラックコレクション『巖と鋼ー神奈川とフランスの交流史ー』」を、県立博物館と明治大学の主催で開催した。ポラックコレクションは、2012年に図書館に収蔵・設置された、日欧交流史に関わる図書、写真、絵葉書、絵画等からなる膨大な資料群である。展示は各種メディアに取り上げられ、概ね好評で、総入館者数は、10,611人であった。

なお、この展示に併設して、明治大学図書館の特色あるコレクションを紹介することを目的に、県立博物館の一室を使い「中村拓文庫展」を開催した。

(3) 所蔵印の変更

「蔵書印、所蔵印の運用に関する内規」（2012年3月5日制定、2014年2月26日改正）により、従来の蔵書印の使用範囲を貴重書のみと限定した。これに伴い、その他の資料については2012年1月から蔵書印に代えて「所蔵印」を押印することになり、新規で所蔵印（大）12本、所蔵印（小）11本等6種類を作製した。

この所蔵印を運用して2年以上経過した2014年4月に、所蔵印（大）印面のLIBRARYのスペルミス（LIBRALYと誤植）が発覚した。そのため2014年7月に所蔵印（大）12本をすべて再作製した。

(4) ゲスナー賞文庫

ゲスナー賞は優れた「本の本」、優れた「目録・索引」に対して3年に1回与えられる、株式会社雄松堂書店が主催する賞である。第1回受賞が1997年に行われたが、2009年にそれまでの5回にわたるゲスナー賞への応募図書全点を寄贈いただき、図書館に設置したのがゲスナー賞文庫である。その後2011年に第6回応募図書全点寄贈いただいた。そして2014年11月6日、パシフィコ横浜で開催された第16回図書館総合展において第7回ゲスナー賞授賞式が行われ、応募図書全点を寄贈いただいた。2015年3月31日現在の所蔵数は、800点（906冊）である。なお、本文庫は、ゲスナー賞の性格および寄贈の趣旨に鑑み、図書館の利用資格に関わらず、全ての閲覧希望者に開放している。

(5) 各館広報活動の推進

図書館では広報活動や読書推進の一環として、2011年度から毎年、図書館オリジナルバッグを製作している。図書館でたくさん本を借りた学生が利用出来ることを意図している。雨の日でも資料を濡らさずに持ち帰れるよう、不織布の周りをビニールで覆う仕様である。本年度は初めて、学生からデザインを募集した。約2か月の公募期間で、5点の応募があった。応募作品の中から全館で利用者による投票を行い、最多得票を得た文学研究科の学生のデザインが選ばれた。

また、同じく広報活動の一環として、クリアファイルを作成した（デザイン1種類、6,000部）。各館において、イベント等で配布している。

(6) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は2010年度に一齐に切り替わり5年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持向上について協議している。5年間の継続業務により、当館の要望レベルに確実に近づいているが、一齐に切り替わる可能性のある委託業務を安定させていくためには、職員のスキルも高くなければならない。業務委託への依存度が増す中、人材育成の課題が残る。

(7) 城市郎文庫

図書 2,507冊 雑誌 253タイトル(849冊)の目録・装備を行った。

発禁図書/雑誌については典拠文献を確認し、その調査結果を書誌記述に反映する作業も行った。2015年度も継続予定。

(8) クリスチャン・ボラック コレクション

図書 2,061冊 雑誌 167タイトル(575冊)の目録・装備を行った。

写真類（明治期古写真・ポストカード・ガラス乾板等）のデジタル化（約5,200画像）を行った。またこれら写真資料のアーカイバル容器の製作を行った。2015年度も継続予定。

(9) 政策経費購入資料への対応

経常予算以外で購入された以下の資料の目録・装備を行った。

設置経費 国際日本学研究科 (245冊)

グローバル・ガバナンス研究科 (126冊)

総合数理学部 (1,528冊)

(10) 図書受入・検収業務

図書予算減額の影響もあり、受人数は減少した。指定書店方式も安定して稼働しており、比較的スムーズに検収を行うことができた。また会計監査、内部監査の指摘もあり、業務フローの見直しを行った。問題がある部分の改善は来年度以降行う予定。

(11) 雑誌整理・受入業務

外国雑誌取次業者 Swets Information Services B. V. 社が倒産したため、年度途中でのイレギュラーな業務が発生した。まず、Swets Information Services B. V. 社に対する債権を確定するために、未着分確認・未着データ作成などを行った。また、次年度以降の代替発注先が決定してからは、発注漏れがないかの確認、自動チェックインにむけての準備などを行った。業務委託開始以降、最大規模の納入者切替であったが、日々データメンテナンスを行ってきたため、データ照合等が比較的スムーズにできた。

(12) システム関連業務

全館の OPAC 端末（100 台）を linux ノート PC による OPAC に更新し運用を開始した。従来のシンククライアントシステムの機能を低下させずに、管理コストを大きく下げることができた。

夏には図書館業務システム iLiswave-J のハードウェアの更新を行った。リプレイスに際して、構成、機能、本学独自で組み込んでいる機能についての見直しも行い、仮想サーバによる柔軟な運用が可能な構成を導入した。結果、運用管理コストも大幅に下げることができた。導入後は大きな障害もなく、安定して稼働している。

(13) システムチームの他部署協力について

2014 年度も継続してユビキタス e-learning（ユビキタス教育推進事務室）の認証システム、学習支援ポータルサイト（manaba folio）の認証システムを提供した。

大学全体の認証統合検討の検討会に加わり、すでに図書館で導入済の shibboleth について情報技術提供を行い、検討検証作業に大きく貢献した。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、創立 120 周年記念事業の一環として建設され、2001 年 3 月 16 日に開館した。街と人の記憶に融合するよう設計され、美しい内観と充実した設備を持ち、2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。専任職員 9 名、短期嘱託 3 名、業務委託スタッフ 21 名、総合インフォメーション 6 名、常駐業者 2 名計 41 名、学生アルバイト若干名で運営され、他の図書館事務室と連携して蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進した。

2014 年 10 月 9 日、開館以来 1,200 万人目の入館者に図書館長から認定証を贈呈した。

(1) 予算削減による開館日減少、開館時間短縮、図書費減額

予算削減で開館時間短縮（4/1～6/1 の間は 21 時閉館、6/2 から 22 時閉館に復旧）、入試期間（2/4～2/17）休館があった。ちなみに前年度の入試期間は、1 万 5 千人余りの利用があった。期中に予算追加され、開館日数は当初の 304 日から 5 日増の 309 日となった。

図書費減額のため学習用図書選定分科会で継続購入図書を見直すなど選書を工夫した。

(2) 外国雑誌約 2 万 8 千冊の保存書庫への移転

記念図書館地下 2 階にある雑誌書架の狭隘化が著しいため、重複資料の除籍を行い、2015 年 3 月 21 日～23 日に、購読中止した洋雑誌約 2 万 8 千冊を保存書庫へ移転した。移転で、今後、約 5 年分の雑誌書架を確保できる見込みである。

(3) 入館者数・各種ガイダンス等

入館者数は 624,907 人（2013 年度 790,950 人）だった。ゼミツアー、各種の情報検索講習会、文学部 3 年次ガイダンス、大学院新入生オリエンテーション、ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科図書館ツアー、新任教員ガイダンス、司書講習図書館ツアー、オープンキャンパス図書館ツアー等を実施し、図書館実習生（他大学）を受け入れた。

「入門講座」「書評の書き方講座」「大学院生による論文の書き方個別相談会」も開催した。第一期図書館サポーターを受け入れ、展示、他大学での活動や懇談会を行った。

(4) 中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室 4 名、図書館総務事務室 3 名のワーキンググループで展示活動を行った。教員や学外関係者と連携し、メンバーが企画・渉外、解説執筆、印刷物作成、展示作業、広報を担当した。展示タイトルは p.23 「4 主要行事 中央図書館ギャラリー」に掲載した。

(5) 各種イベント等の開催

利用マナー教育と読書推進活動のため、図書館オリジナルバッグのデザインコンテストを全館で行い、最多得票のデザインでバッグを作成し学生に提供した。「知」による社会貢献のため、8月4日に小学生が大学図書館を体験する第6回「一日図書館長体験イベント」を開催した。9月17日に第4回ブックハンティングを開催した。第5回図書館書評コンテストは、図書館活用奨励と優れた書評を顕彰し読書活動を推進することを目的に開催され、応募作は、図書館有志の予備採点、選考部会の選考で受賞作が選定され、2015年1月31日に中央図書館で授賞式を行った。

(6) 施設・設備の保守・管理

開館14年目となり、地下3階共同閲覧室壁塗装工事、天井照明管球交換工事、プレゼン機器リプレイス、非常用出口扉電気錠交換工事、自動書庫リフター・オートドア・コンベア点検、ブックディテクションシステム（BDS）等の定期点検、閲覧用椅子40台クロス張替え、ネットワーク対応型防犯カメラ15台設備更新改修工事等があった。

(7) ローライブラリーと法科大学院生・法学研究科院生の利用

ローライブラリーは、中央図書館の館内整理休館日も開館した。法学研究科院生も、学生証の提示で利用できる。施設改修後、4月にサイン是正工事を行った。

(8) 国際交流への貢献

国際交流に伴い、海外からの視察や図書館利用を受け入れた。日本語短期研修プログラム（ASEAN）、ノースイースタン大学共同プログラム、タイ王国シーナカリンウィロート大学共同プログラム、南カリフォルニア大学共同プログラム、情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム2014、メイジ・ユニバーシティ・ロー・イン・ジャパン・プログラム、国際交流基金関西国際センター、クールジャパン・サマープログラム、リオブランコ大学・ジャパン・ラテンアメリカ異文化交流プログラム、国際イスラミック大学図書館職員研修、日本語短期研修プログラム（冬期）等で、昨年より微増した。

(9) 大規模災害への対応

5月末の館内整理休館日に、大規模災害を想定した自衛消防・避難誘導訓練を行った。

(10) 懸案事項

開架エリア・記念図書館地下2階書庫・第三書庫・地下2階事務室の狭隘化、地下3階開架エリア書架増設、豪雨時の記念図書館地下1階浸水防止、K階の壁面クラック修理、共同閲覧室扉から騒音遮断防音壁の設置、デジタル編集室・点字閲覧室書架の用途改善、自動書庫の文庫・明大文庫等の排架整理、図書館総務事務室書架・第三書庫書架の整理。

3.3 和泉図書館事務室

新図書館開館3年目を迎えた。2014年6月26日（木）午後2時に200万人目の入館者を記録した。開館以来13カ月ごとに100万人の入館者を迎えていることになる。前年度に比べて年間入館者数は減少したが、開館日数が22日減少したことを考慮すると、平均入館者数は前年度を維持していると言える。また、日本図書館協会建築賞をはじめ、建築関係機関による賞を受賞し、高く評価された。受賞関係は、前年度のグッドデザイン賞等を含め7つとなった。全国各地からの見学者は減少することなく3年間ほぼ同数となっている。2014年度は、95件、590名（開館以後累積286件、1,937名）の見学案内を行い（学生ガイドを除く）、自由見学者は3,200人以上であった。

(1) 業務体制と人事政策

業務体制は、専任職員 6 名、嘱託職員 1 名に加え、調査役 1 名の異例の配置があった。専任職員は管理職を含め 3 名の異動があり、このうち 2 名は他部署からの異動者と新入職員であり、いずれも図書館業務は初めてであった。このような状況で、初年次教育の一環として行う授業内の図書館ガイダンスを 170 件実施するためには、それ以外の職員の負荷が大きかったことは否めない。重点的業務としてレファレンス業務および図書館リテラシー教育があるが、職員全員がこの業務のスキルを持ち、さらに向上させることが必要である。そのため、これら業務を全員が取り組み、スキルアップを図った。

(2) サービス体制と運用

2014 年度も引き続きサービス強化に努めた。エントランスでの毎朝開館時 10 分間の挨拶を通して、日々の学生の様子を確認することから一日の業務を開始してきた。利用者の動向確認や館内整備を目的に、職員による館内巡回も日課とした。朝から来館する利用者は大抵同じ閲覧席に座っており、午後には大勢の学生が入館し、授業の関係もあってか水曜日・木曜日午後の館内はほぼ満席状態であることも多々あった。

学習支援活動として、文献の探し方、データベースの使い方、レポートの書き方などの支援を行った。大学院生によるナビ・ステーションは、2 階サブカウンターから 1 階サーチ・アシストへ移し、よりわかりやすい位置に設置することで利用率を上げるようにした。

さらに読書推進活動や図書館を身近に感じて図書館利用促進につなげるような様々なイベントを開催した。これらイベントの中には、他部署との連携によって開催したものもある。2014 年度新たな試みとして、「日本文化を知ろう～茶道体験～」イベントを開催し、多くの学生の参加があった。参加した学生からは、日本文化を知ることになった、今後も参加したいなどの反響があった。

このほか、開館 2 周年を記念したイベント、入館者数 200 万人日を記念したイベントを開催し、利用者とともに祝いムードを楽しんだ。

(3) 新入生オリエンテーション

各学部の新入生ガイダンスにおいて、図書館利用案内（約 30 分）を実施した。スタンプラリー、図書館オリジナルバッグプレゼントも例年どおり実施した。

(4) 杉並区図書館ネットワーク・世田谷区立図書館との連携

杉並区民・区内協定校のライブラリーカード発行枚数は 164 枚となり、前年度発行枚数 178 枚より 14 枚減となった。一方、世田谷区民のライブラリーカード発行枚数は、117 枚となり、前年度の 50 枚から 2 倍以上となった。校友のライブラリーカード発行枚数は 177 枚であり、前年度発行枚数 239 枚に比べ、62 枚減少となった。杉並区および校友のライブラリーカード発行枚数は 2 年連続減少となった。

杉並区民、世田谷区民の利用については、貸出利用のない場合は各公共図書館の利用カードの提示のみで入館を可能としてきたが、管理上の不具合が生じてきたことから、ライブラリーカード発行による利用へと変更することとした。杉並区立図書館および世田谷区立図書館と打合せを経て、実施は 2015 年度からとし、広報を 2014 年 2 月から行った。

杉並区図書館ネットワーク講演会

「21 世紀における大学生のメディア利用動向ーネット社会でのマスメディアの役割の変化」

【日 時】 2014 年 10 月 11 日（土） 13:00 ～ 14:30

【場 所】 杉並区立中央図書館

【講 師】 萩原 滋氏（立教女学院短期大学特任教授）

社会連携事業の一環として、杉並区および世田谷区の中学校から職場体験学習を受け入れた。

3.4 生田図書館事務室

2014 年度は、大学の厳しい財政を理由に開館に伴う業務委託費が大幅に削減され、明治大学図書館全館の開館日数、開館時間を大幅に短縮せざるを得ない状況となったが、生田図書館では毎年 2 月に予定される理工学部、農学部の修士論文提出に伴い、2 月の開館時間、開館日を確保するため、通年で平日の閉館時間を従来より 1 時間短縮し、夜 9 時閉館とし、夏季休業期間中の土日は休館、秋の生明祭など地域住民や受験を考えている高校生や父母の来館が多い時期にも閉館するという異例の事態となった。日々の夜間開館、土曜日午後、日・祝日開館は業務委託が担っており、業務委託費の削減は、開館日数、開館時間の減少となって利用者サービスを直撃した。業務委託で働く人々からは働く日数が減ることによる生活への不安の声も上がった。

生田キャンパスは、一度登校すると実験や研究で長時間キャンパスに留まる研究滞在型キャンパスであり、実験は通年で行われるので、平日だけでなく、土日、祝日も大学に来る大学院生や教員は少なくない。以前から明治大学図書館 4 館の中で生田図書館の開館日数が一番多い理由である。大学院生の数は 1,000 名を超え、駿河台キャンパスの各研究科の大学院生（専門職、法科大学院除く）を合わせた数より多い。

これらは生田キャンパスの特徴であり、図書館運営もキャンパスの特徴を把握した上で、生田キャンパス各部署と連携をとり、ギャラリー ZERO の展示や就職支援のデータベース講習会等を行った。一方で学生の教育に携わる教員の声は的確な助言でもあり、副館長や両学部の図書委員、学習用図書選書委員の先生方と生田キャンパスの教育・研究支援について日常的に情報共有を行っている。生田図書館のイベントやギャラリー運営、リテラシー教育については「学生のことは教員が一番よく知っている」という先生方の声を参考に、「図書館がやりたいことだけではなく、学生や教員が生田図書館に求めていること」を念頭において計画するように心がけている。

2013 年度後期から始まった『ココスパ』（ココロのスパで癒しのスパイス、プラスしてみませんか）は、2014 年度春学期 13 回、秋学期 14 回を開催し、生田キャンパスで徐々に定着しつつあり、現在まで理工学部と農学部の教員 30 余名と生田キャンパスの職員も話者となった。詳細は『図書の譜：明治大学図書館紀要』第 19 号に記載。話者にはテーマに関係する図書を事前にあげてもらっているが、学生の貸出も多く、『ココスパ』は、職員がテーマを決めて選書する「特集コーナー」と並ぶ図書館の読書支援策にもなっている。読書支援は生田図書館の重点項目であり、2014 年度 10 月からは、世界や日本で今現在、報道されているホットな話題から一つを選び、「話題の本」コーナーを設置し、業務委託者も含めた図書館員で選書している。速報性が大事なので展示は 1 週間程度である。

生田地区選出の副館長ならびに理工学部、農学部の図書委員と各学科 1 名選出の選書委員からなる「教員による学習用図書選書委員会（生田）」（全 15 名）では、委員が毎週 1 回見計らい図書の選書を行っており、様々な専門の教員が学習用図書の選書を行うことで、生田図書館の蔵書構成の充実につながっている。

2013 年度に政策経費で申請した「生田図書館のアクティブラーニング化」は、2014 年度も承認されず、今後、生田キャンパス全体の施設計画の中で、明治大学教育研究施設計画推進委員会の下にある生田キャンパス施設計画専門部会で検討することとなった。

(1) 施設工事・環境整備

本年 6 月、初めての試みとして神奈川県立高津養護学校からインターンシップの生徒 3 名が生田キャンパスの清掃担当者の指導のもとで、図書館 1 階、2 階の外ガラス清掃を行った。障がいを持つ生徒たちが働く姿は、周囲への教育効果も期待できる。生田キャンパスは豊かな自然環境に恵まれている一方で、図書館内には蜂やムカデ等が侵入し、図書館員が咬まれる等の被害があとを絶たず、生田図書館は建築物衛生法の特定建築物の範囲（面積 8,000㎡以上）には入らないが、担当部署に願ひ書をあげて今年度は 8 月と 12 月の 2 回、事務室と業務委託作業室の 2 か所で害虫防除を実施した。9 月には事務室内のコピー機に LAN ケーブル接続工事を行い、コピー機から PDF を作成できるようになり、業務資料保存が簡便化された。1988 年の増築工事以来、一度も清掃していなかった事務室のブラインド清掃を 12 月に業者が行い、事務室全体が明るくなった。2015 年 1 月の定期試験前に、閲覧室の二酸化炭素濃度が高いのではないかとという投書があり、1 月末に生田キャンパスで行われた法定環境測定時に各閲覧室を計測してもらったところ、1 階の閲覧室の濃度が基準値をはるかに超えていた。ここ

は1969年の開館当時、書庫だったところで、測定者から強力な換気装置の設置が必要との指摘があった。2月には2年に一度行う天井部分の水銀灯の取替えおよびカバーの清掃作業（設置個数：71箇所）が実施された。

(2) 展示ギャラリーの運用

2014年度は14件（学部・研究科等企画9件、図書館企画5件）の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の作品発表、教員・研究室・ゼミナールの研究・活動成果発表等。詳細はp.24「4 主要行事・イベント 生田図書館ギャラリー（Gallery ZERO）」を参照。

(3) ガイダンスおよび図書館リテラシー教育の充実

4月1日から4月9日まで行われた理工学部、農学部の新入生指導週間行事日程の中で、理工学部2回（対象者計1,091名）、農学部1回（同588名）の新入生図書館利用ガイダンスを実施し、4月8日には新任教員図書館利用ガイダンスを実施した。新入生歓迎行事の一環として、4月4日～18日までの2週間、館内で行ったスタンブラリーには計61名が参加した。

次に年間を通じてのリテラシー教育活動として、21回のゼミガイダンス（含・グループガイダンス）に計218名が参加したほか、大学院生によるレポート・論文書き方講座、情報検索セミナーを全11回実施し、計23名の参加があった。

秋学期に生田就職キャリア支援事務室との共催で実施した「口経テレコン講習会」（全12回、11月4日～1月14日）では、174名の参加があった。

なお、2014年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」（受講者143名）に図書館職員3名を派遣し、「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の2コマ計8回の出張講義を行った。

(4) 学習用図書選書

図書費予算の大幅削減に伴い、継続図書の見直しと加除追録資料の購入を中止した。

継続図書については、和書25件、洋書6件、合計約90万円の見直しを行ったが、今後も断続的に実施したい。春学期は人文社会分野で中央図書館、和泉図書館との重複購入を避け、節約選書に徹したが、秋学期以降は予算が追加されたので、生田図書館従来の利用者日線の選書を心掛けた。

学生によるブックハンティングは5月24日に実施し、121冊を購入した。

(5) 特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。

- 4月1日（水）～5月13日（火） 2013年度第2回ブックハンティング
- 5月14日（水）～7月21日（月） We are the 日本人
- 7月22日（火）～9月30日（火） 2014年度ブックハンティング
- ミニ企画 8月1日（金）～8月22日（金） 教員おすすめ本
- 10月1日（水）～11月10日（月） お江戸でござる
- 11月11日（火）～12月18日（木） 「働くこと」のリアル - 就職関連の本 -
- 12月19日（金）～1月26日（月） 日本の四季
- 1月27日（火）～3月31日（火） 図書館スタッフおすすめ本

(6) 話題の本コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事やwebでの話題から生田図書館の蔵書をピックアップし、学生の読書へのきつ

けを提供した。秋学期より開始。

- 1 ノーベル賞 10月13日～
- 2 知ろう！感染症の怖さ 10月22日～
- 3 和紙 ユネスコ無形文化財遺産へ 10月29日～
- 4 大相撲 11月5日～
- 5 追悼 高倉健 11月18日～
- 6 宮崎駿監督アカデミー賞名誉賞 12月1日～
- 7 総選挙 投票へ行こう 12月8日～
- 8 はやぶさ2の挑戦 6年の宇宙航海へ 12月15日～
- 9 食の安全 1月14日～
- 10 食の安全 パート2 2月1日～
- 11 イスラムを知るための本 3月23日～
- 12 祝！北陸新幹線 3月24日～

(7) 川崎市図書館との相互協力

2010年4月から始まった川崎市立図書館（全13館）と生田図書館の相互協力は5年目に入った。その後、2014年1月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった多摩区3大学図書館（明治、専修、日本女子大学）・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議は、7月に本学で開催し、会議前に登戸研究所資料館を資料館職員の案内で見学したが、参加者からは地域の大切な歴史資料を見て深い感銘を覚えたとの感想が寄せられた。3月には専修大学生田図書館本館で開催し、利用者の少なくなる夏季休業期間中は地域の受験生や高校生に図書館を開放しているなど、他館の地域連携事業を聞く事は参考になった。

2014年度は多摩区広報などへのギャラリー ZERO 展示のお知らせ掲載や多摩図書館から川崎市民への積極的な広報もあり、前年度に比べ川崎市民の入館者数が1,000名以上増加するなど、生田図書館の地域連携は成果を伴いながら定着してきている。図書館を利用する川崎市民が、ギャラリー見学やココスパへ参加することも珍しくない。2010年度からの統計推移は以下のとおりである。

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
LC作成数	137名	58名	58名	70名	47名
入館者数	3,271名	4,046名	3,788名	3,668名	4,748名
貸出冊数	1,805冊	2,061冊	2,452冊	2,689冊	2,506冊

3.5 中野図書館（中野教育研究支援事務局）

2014年度は中野図書館開館から2年目の年であった。中野キャンパスの学生数は、総合数理学部が2年生まで入って、2013年度の約2,150名から約2,400名に増加した。

蔵書数は、2013年度末に32,383冊であったものが、1年後に41,328冊となり8,945冊増加した（簿外図書を含む）。中野図書館の収容可能冊数は当初46,000冊としており、多く見積もって50,000冊程度まで入るとしても、このまま何もしなければあと2年で飽和状態である。したがって生田保存書庫に、中野図書館向けに使えるスペースを確保するなどの交渉をした。

後にふれるが入館者数、貸出冊数とも想定以上の増加がみられ、全体的に安定した開館運営ができた。これは業務委託者に負うところも大きい。業務委託者数は開館当初と比べて1名減っている（2014年度は9名）。専任職員と派遣職員の数とは2名ずつで変更はない。

(1) 開館運営状況

業務委託予算削減のため、2014年度は日・祝開館を休止し、4月、5月は平日の閉館時間が1時間早まった。

中野でも若干の利用者から残念であるという意見があった。2014 年度の入館者数は、のべ 117,088 名であった（昨年度比 19.9% 増）。

貸出冊数は 36,719 冊であった（昨年度比 31.5% 増）。学生一人あたり平均貸出冊数は約 13 冊に増えた。他キャンパスからの配送件数は 2013 年度と同じくらいで 13,783 件であった。蔵書も増えて全貸出件数に対する配送件数の割合は減ったことになる（約 50% から 37.5%）。

2014 年度から山手線コンソーシアム利用を可能と変更したが、年間入館者のべ 492 名で特に問題はない。

中央図書館が入試期間中に休館であった 2015 年 2 月の中野図書館入館者数は 4,408 名で、2013 年度の 1.74 倍であり、大きな影響が表れた。

また閲覧業務改善として、全館での情報共有、マニュアルの整備、連絡会の活性化など中野図書館担当者も積極的に貢献した。

(2) 蔵書構築について

2014 年度中野図書館学習用図書予算で購入した図書は 5,592 冊であった。新刊は他館で購入している図書と同じ図書も多い。他館にある図書は数年後に除架対象となるものも多いだろう。設置経費図書は、総合数理学部 1,528 冊、国際日本学研究科 245 冊であった。秋学期途中で学習用図書予算が追加となり、それに対応して中野キャンパス授業科目に関する図書を各種テーマごとに 10 冊前後をめどに発注するなどした。

加除資料は使用頻度が低いので、全タイトル購入・差替えを停止した。学習用雑誌は 3 タイトル見直し入れ替えをした。電子資料であるが、マクミラン・リーダーズが丸善株式会社の機関向け電子書籍提供サービスで利用できるようになり、電子資料購入申込をして 2015 年 3 月から利用可能になった。電子ブックの活用も今後の中野図書館の課題である。既存図書で電子ブック利用可能なものの調査などから始めたいと考えている。

蔵書増加への対応として、参考図書と 7 類以外の一般書架の棚を 6 段から 7 段に変更する作業を夏季休業および春季休業中に実施した。棚板は当初導入したものだけでは足りないので 2014 年度に 90 棚を購入した。

(3) 各種ガイダンス・イベント等の実施

各種ガイダンスで 2013 年度になかったものとしては「ゼロから学ぶ<レポートの書き方>」のシリーズを 6 月、3 週間にわたって実施した。

イベントとしては、ブックシェアトーク（1 回）、ブックハンティング（2 回、計 11 名参加）、としょかん福ぶくろ（図書館バックにスタッフが選んだテーマ本を入れる）配布などを実施した。

読書・貸出推進としては主に次のようなことを行った。特設コーナーはオススメ本棚と呼称を変更し、2014 年度もスタッフがテーマを決めて関連図書の展示を通年行った（計 16 回）。『図書たより』（専任・派遣による図書紹介が中心、5 冊程度）を 7 号まで発行した。図書たよりは紙だけでなく、デジタルサイネージや HP、さらに OPAC のブックレビューでも公表している。毎週、新着図書リストを HP に掲載、2015 年 2 月からはデジタルサイネージでも、本の表紙画像・あらすじ付きで開館中ずつと表示するようにした（2 か所）。

(4) 最後に

2015 年度、授業が始まって 1 日の入館者数がのべ 900 人を超える日が増えている。これは 2014 年度の試験期のレベルである。新入生が増えただけではなく、在学生の利用も定着度を増しているように思われる。中野での校友の新規登録も着々と進んでいる。2015 年度から 2016 年度（当初予定の学生数最大化）にかけて、座席数の面で学生のニーズを満たしていけるかという課題が明らかではあるが、学内関連部署のご協力とこれまでの我々なりの努力が実を結んでいるとしたい。